

第1回気仙沼・本吉圏域会議

【日時】令和4年6月10日（金）15時00分から17時00分まで

【場所】気仙沼プラザホテル 飛天の間

【委員からの主な意見】

- ① 教育旅行において、SDGsを目的とした震災学習や体験学習をしたいという学校と気仙沼市の体験型のコンテンツがマッチングできている状況。
- ② 教育旅行は小規模宿泊施設での受け入れが難しいので、気仙沼市全体の宿泊の底上げをするために、10人～40人の小規模の教育旅行の受け入れを進めていきたい。また、分宿が可能な都道府県へ県からも働きかけをお願いしたい。
- ③ 教育旅行は大きな買い物や外に出ての食事とはならず、日帰り旅行も意外と多いので、消費にどれくらい結びついているか検証が必要だと思う。
- ④ 気仙沼・本吉圏域内での周遊がなされておらず、宿泊が落ち込んだまま回復していない。また、秋冬の閑散期対策が必要である。
- ⑤ 農業や水産業の体験を軸に誘客できればよいと思うがそれには人財育成が必要であり、確実に対応できるよう受け入れ態勢の整備も必要と考える。
- ⑥ 震災を語りついでいくことが大切であり、語り部の担い手育成が課題としてあるので、県と一緒に解決しながら取り組んでいきたい。
- ⑦ コロナの消費喚起策として、事業者の規模を問わない全ての業種に使える割引クーポンを実施してほしい。
- ⑧ 交通事業者が燃料高騰でかなり苦しんでいる状況にあるので、県としての支援策を検討してほしい。
- ⑨ 兵庫県では県立大学に観光学科を設置している。観光に力を入れていくのであれば、そのような専門的な勉強ができる大学があるといいのではないか。
- ⑩ 観光戦略プラン策定後に必要なのは、修学旅行や教育旅行のほかに全国的なイベントを開催し、中学生や高校生を呼び、将来の顧客の種まきを行うことである。今のうちに思い出作りをすると将来のリピートにつながると思われる。
- ⑪ お客様に対するサービスの部分で事業者のコストとお客様のコストが上がっている。それに見合ったサービスをすることが、大きな課題になりつつある。
- ⑫ インバウンドを呼び込むにあたり、今後経済成長していくと思われる国々をターゲットにしていくことが必要である。また、この圏域に呼び込むための方策として、JR一関駅や仙台空港から無料バスを走らせてはどうか。
- ⑬ 無料バスが難しいのであれば、持続交通検討会議での議論をさせていただきたい。
- ⑭ インバウンドの域内周遊を促すため、観光バス需要が大きくなるが、観光バス会社もコロナや燃料高騰の影響により非常に厳しい経営を強いられている状況である。
- ⑮ インバウンドのターゲットをもう少し明確にすべきではないか。例えば外国人は武道や日本の文化に興味あるとの話を聞くので、そういった方々をターゲットにしてはどうか。
- ⑯ 宮城オルレ（気仙沼・唐桑コース）を生かしたコンテンツづくりに取り組んでいくので交通の問題等はあるがご支援いただきたい。唐桑の宿に泊まり、食材を食べていただき消費につなげるのが課題である。

- ⑰ 宮城オルレ（気仙沼・唐桑コース）で来られた方がコース途中で歩けなくなってしまうことがあるので、それに対する交通の対策も必要ではないか。
- ⑱ スポーツツーリズムを推進するために、マラソン大会やツールド東北などのような多くの誘客が見込めるイベント、大会、合宿、講習会などの誘致を進めてきているので県にも協力してもらいたい。
- ⑲ スポーツツーリズムはリピートにつながり、いろんな団体・個人が集まることで地域の魅力向上にもつながると思うので地域として受け入れ態勢を進めているところである。
- ⑳ 音楽・食・文化のイベント、いわゆるイベントツーリズムが大きいコンテンツの一つであり、重要である。食材王国みやぎを生かし、県全体でフォローアップしていく必要がある。
- ㉑ G o T oが始まるまでの間、県民割を継続いただきたい。また北海道・東北圏域だけでなく、関東まで広めてほしい。
- ㉒ ビーチクリーン地域住民の方々と一体となってこれからも実施してまいりたい。それが観光にもつながると考える。
- ㉓ 子どもの頃に自分の住んでいる地域の海や砂浜がきれいで観光客が来ていることを見聞きすることで、将来、地域の魅力を発見したり、リターンにつながるのではないか。
- ㉔ 今後の観光施策において、アウトドアコンテンツが重要になってくると思う。気仙沼・本吉圏域はアウトドアが充実しているので、その資源を生かした観光客誘致ができれば良い。ただし、夜まで楽しめるコンテンツを造成しないと宿泊客を増やすことはできないと考える。